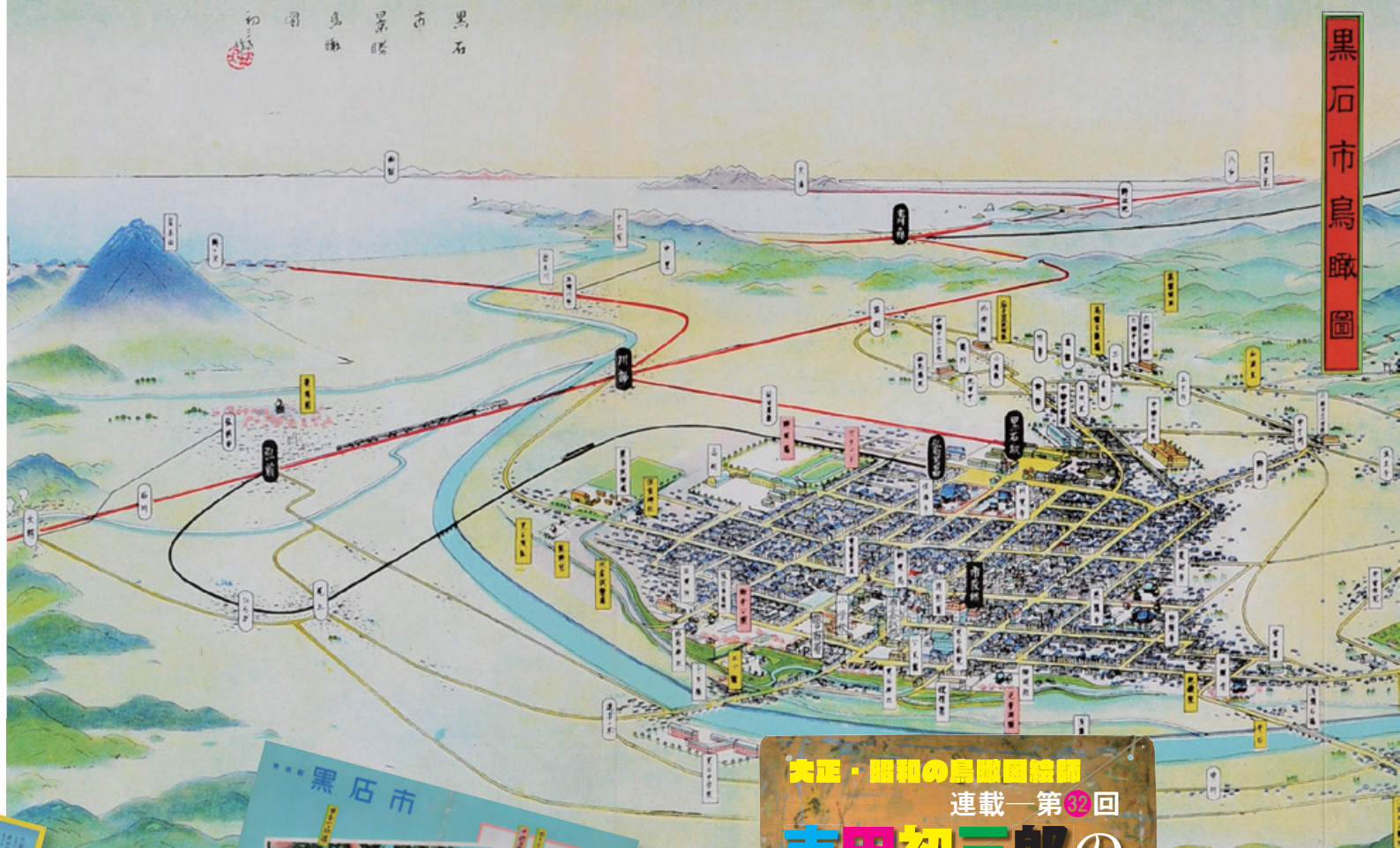




『黒石市「黒石市鳥瞰図」』
(昭和29(1954)年)
津軽山形温泉観光協会 発行



黒石市・黒石市鳥瞰図 県立公園大鰐温泉郷・大鰐町鳥瞰図

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

今回は、二つの初三郎鳥瞰図絵巻を登場させてふれてみたい。

弘南鉄道は、昭和二年九月七日、弘南鉄道弘前―津軽尾上間の鉄道新規開業に始まる。昭和二十五年には津軽尾上―弘南黒石間の延伸によって、ようやく弘前―黒石間が全通(十六・八km)している。

一方、弘前電気軌道(後の弘前電気鉄道)は、昭和二十七年一月二十六日に大鰐―中央弘前間(十三・九km)の鉄道新規開業をしていたが、昭和四十五年に弘南鉄道に資産を譲渡。本図の「黒石市鳥瞰図」(昭和二十九年)には黒い曲線で図示。赤い国鉄(現・JR)路線の奥羽本線などがメインとなっている。

当時は川部―黒石間も国鉄黒石線だったが、昭和五十九年に弘南鉄道黒石線に受け継がれた。しかし、平成十年廃線となる。

大胆な構図は、黒石市街地を中央にして、市役所や消防署、警察署

藤本一美

首都大学東京・専修大学非常勤講師。地図情報センター理事。日本地図学会評議員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵巻の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に『旅と風景と地図の科学Ⅱ』(私家版2006年)、最新刊に『展望の山50選 関東編』(東京新聞出版局)がある。



大鰐町鳥瞰図



『県立公園大鰐温泉郷
[大鰐町鳥瞰図]』
(昭和30(1955)年)
大鰐町役場 発行
京都市内の観光社 印刷



弘南鉄道株式会社

Kounan Tetsudou

設立：大正15(1926)年3月27日
本社：青森県平川市本町北柳田23-5

弘前を核に2路線が走る 国内最北の民営電気鉄道

弘前藩の城下町として栄えた弘前市と隣接する市町村を結ぶ弘南線・大鰐線、二つの鉄道路線を運営している。弘南線は、弘前から津軽平野を黒石に向かう13駅・16.8kmのL字型の路線。弘前電気鉄道が開業し、昭和45年に譲渡を受けた大鰐線は14駅・13.9kmの路線で、弘前と南東に位置する温泉の町・大鰐とを結ぶ。国内では最北の民営電気鉄道である。

津軽地域の生活路線として住民の暮らしを支えとともに、四季を通じて訪れる観光客の足としてサービス向上に努めている。夏の納涼ビール列車、冬の忘年列車、郷土料理を車内で振る舞う「けの汁列車」など、さまざまなイベント列車を運行しており、地域観光の振興に注力している。



なお、初三郎自身は、昭和三十年八月十六日、享年七十二歳で京都にて没している。二図とも初三郎最晩年の作品といえるので、初三郎指示のもと、主に吉田朝太郎（二代目初三郎）が描画したものであろう。

白雪のゲレンデとスキーヤーの滑る姿、春のピンクの桜、秋の紅葉が同時に存在する、まさに鳥瞰図絵ならではの不思議な魅力を堪能することができるのだ。

白雲のゲレンデとスキーヤーの滑る姿、春のピンクの桜、秋の紅葉が同時に存在する、まさに鳥瞰図絵ならではの不思議な魅力を堪能することができるのだ。

構図は、中央に阿闍羅山の北斜面スキー場と大鰐の町並み絵図、温泉郷の湯煙を大きく描画。両端には十和田湖と岩木山、弘前城跡、それに青森から函館までも配置。

病院、学校、寺社仏閣などを立体絵図風に描写。両端に津軽富士の岩木山とカルデラ湖の地形でもある十和田湖や八甲田山を配置。

岩木川源流部の湯湯・板留・沖浦・青荷などの温泉郷の湯煙群に圧倒されそう。下北・津軽半島の遙かなたには、北海道まで小さく表現して夢は飛ぶ。

もうひとつの本図「大鰐町鳥瞰図」(昭和三十年)には、青森―弘前―大鰐―大館―秋田を結ぶ奥羽本線が南進し、太い赤線で、弘前電鉄(文字で表示、現・弘南鉄道大鰐線)の路線は細い赤線で図示している。